

主要経緯

- 平成 19 年 10 月～平成 20 年 9 月 4 日
No.1 タンク内点終了し、保安検査済証受領するものの、消防局から詳細なデータが採取できる連続板厚測定機を使った検査の推奨あり
- 平成 20 年 10 月 3 日～5 日
連続板厚測定機を使い、代表部位測定を行なった結果、減肉箇所 3 箇所が確認され補修実施
- 平成 20 年 10 月 15 日
減肉部が検出されたことから、消防局より底板全面連続測定の再指導
- 平成 20 年 12 月 8 日～平成 21 年 1 月 18 日
10 月未実施の底板部の連続測定を実施するために、サンドブラスト及び防食塗装実施。サンドブラスト後、平成 20 年 12 月 15 日に貫通部 2 ヶ所を発見し、貫通部周辺を 30 mmピッチで板厚測定後、現状保存のためマスキングを実施。
- 平成 21 年 1 月 19 日～2 月 13 日
底板全面連続測定を 5 mmピッチで実施
- 平成 21 年 2 月 20 日
検査結果を消防局へ報告
「底板 7 枚に不具合があり、最小は 2.1 mmだった」
貫通部周辺はマスキングしていたので、連続測定データが採取できなかったため、平成 20 年 12 月 15 日に測定した 30 mmピッチでの測定結果を基に肉厚 2.1 mmとしてデータを入力（九電指示）
- 平成 21 年 4 月 13 日～5 月 14 日
穴貫通部周辺を含む減肉部分の補修工事を実施
九電より破孔を口外しないよう関係者へ要請
- 平成 21 年 7 月 31 日
タンク工事完了（完成検査済証受領）

以 上